



公社改革の方向性について

令和2年12月23日



広島高速道路公社

Hiroshima expressway public corporation



はじめに

広島高速道路公社は、平成9年6月に設立以降、高速道路の整備を順次進めるとともに、適切な管理運営を実施し、安全で快適な道路サービスの提供を行ってきました。

こうした中、高速5号線工事契約に関連し、県民・市民の皆様にご心配をおかけしたことについて、当公社は深く反省しており、昨年11月以降、再発防止の取組等を進めています。

当公社の目的は、より多くの県民、市民の方に広島高速を利用してもらい、都市圏の発展に貢献することにあります。そのためには、まずは、県民・市民の皆様にご信頼される公社になることが不可欠です。

今後は、この「公社改革の方向性」に沿って具体的な取組を進め、公社経営の品質を向上させ、県民・市民の皆様にご信頼される、公社ブランドを構築してまいります。

令和2年12月23日

広島高速道路公社 理事長 熊谷 鋭



I 改革の趣旨

- 当公社の設立目的は、経営理念に掲げるとおり、「道路サービスを持続的かつ効率的に提供し、（より多くの方に利用してもらい、）活力とにぎわいのある広島都市圏への発展に貢献する」ことです。
- しかしながら、高速5号線シールドトンネル工事契約事案においては、“事業推進”そのものが、公社の目的になっていたものと受け止めています。
- 現在、当該契約事案に関しては、昨年11月に公表した「再発防止の具体的な取組」を確実に実施しているところですが、社会経済情勢が変化する中で、今後も、難しい判断を迫られる局面が多々あると考えられます。
- こうした局面において、公社の設立目的を忘れず、適切に対応していくためには、再発防止など個別の対応策と合わせて、抜本的な対策として、変化に柔軟に対応できる、強靱な組織力を築いておくことが最も重要です。
- こうした考え方の下、強靱な組織力の構築に向け、次の3つの方向性で改革を進めていきます。



II 改革の方向性

1 公社ガバナンスの強化

【現状と課題】

- 現在、公社内には、会議や委員会などが数多く存在しますが、その位置づけが不明確なものや、運営方法を改善すべきものなどがあります。



【方向性】

- 公社内の意思決定が、より適確で円滑かつ効率的に進むよう、新たな仕組みの導入を進めます。
- 業務の適正化を図るため、監理体制の強化を進めます。

2 将来を見据えた組織づくり

【現状と課題】

- 供用中の高速道路施設は、橋梁や舗装などの老朽化が進んでおり、今後も、老朽化は一層進んでいくことになるため、これに適切に対応する必要があります。
- 建設中路線の推進に加え、将来の高速道路ネットワーク機能の拡充に取り組む必要があります。



【方向性】

- 組織体制については、良質な道路サービスの提供を維持し、多くの方に利用してもらえよう、管理運営の強化及び高速道路ネットワーク機能の拡充に対応できる体制の整備を進めます。
- 人材については、適切な人材育成に取り組むとともに、より主体的かつ円滑に公社運営ができるよう、ノウハウと経験を積んだプロパー職員の管理・監督職への積極的な登用や、計画的な職員採用を進めます。



II 改革の方向性

3 職員が幸せを感じる職場環境の整備

【現状と課題】

- 現在、公社の職場環境については、施設・情報セキュリティ面や、出社を前提とした勤務形態などにおいて、ICTを活用し改善すべき点が多くあります。



【方向性】

- 今後は、労働生産性を向上させるとともに、子育てや介護への対応など職員が望むワークライフバランスが実現できるよう、ICTを活用した職場環境整備を積極的かつ計画的に進めます。

III 今後の進め方

- 改革の方向性に沿った具体的な取組については、一定の段階で、取組をまとめた上で、当公社のHPで公表していきます。
- また、今年度改定予定の「中期経営計画」については、改革の方向性を踏まえて、見直しを進めます。